

東日本大震災復興 NPO 支援・全国プロジェクト

仙台事務局 メルマガ NO6 (8月16日発信)

震災から5ヶ月が経ちました。被災者の方と接していると、お盆もおわり、なにか一区切りついたような…、というよりも自らを奮い立たせ、一区切りつけて前向きに進んでいこうという気持ちの人が多様な気がします。そして、自立していくための財産の問題、生活のこと、仮設を出た後の自分が暮らす町のことなど、より現実的な問題に目を向け始めています。

さあ、私たちに何が出来るのでしょうか？

仮設に入居している方たちに寄り添い、その声を聴きながら活動していきたいと思います。

~~コンテンツ~~

8月 1日、市民協宮城会員会議

8月 4日、第4回パラソル喫茶 in 仙台市 (JR 南小泉アパート)

4日、第5回パラソル喫茶 in 仙台市 (仙台港背後地6号公園)

8月 7日、パラソル・ビアパーティ in 東松島市 (4回目)

■ 8月1日、市民協宮城会員会議が行われました (敬称略)

出席：【東京】市民協代表理事：島津禮子、専務理事：田中尚輝

【宮城】介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会代表：大川昭雄、
熊谷道夫

WAC 代表：小林俊一、WAC まごころサービスみやぎ理事長：横濱敬子

住民互助福祉団体ささえ愛山元理事長：中村怜子

東日本大震災復興 NPO 支援全国プロジェクト仙台事務局：近藤明美、
藤田佐和子、岩月ゆい

田中さんの司会進行のもと、島津さんより「市民協の活動報告」があり、次に仙台事務局より「東日本大震災復興支援の取り組みについて」報告しました。その後、諸々の意見交換をしましたが、皆さんそれぞれにご自分の団体の活動が忙しく、被災者支援を積極的に行うまでは出来ないが、今後 LSA 等を展開したときには講師として協力しますということでした。また大川さんは、「宮城会員会議を開いたのは2年程前になるので、これからはせめて2ヶ月に1回は開いていこうと思う」と話されていました。

ネットワークはフットワークとも言われるように、出かけて、お互いに顔を合わせて、顔の見える関係の中から情報交換していく日頃の積み重ねがものをいいます。この震災を機に、市民の立場から活動している福祉団体がネットワークを再構築し、その力を発揮して、「困ったときはお互いさま」の理念が各市町村に浸透していくようになるといいですね。

■ 8月4日、第4回パラソル喫茶 in 仙台市 (JR 南小泉アパート)

仮設住宅に入らないで、仙台市が借り上げた民間アパートに住んでいる人達があります。一見、仮設よりはアパートの方が良いと思われるかもしれませんが、実際はどんな人が住んでいるのか情報がなく、交流もないようです。そんな状況を憂い、空いている部屋をサロンに使用したいと区役所

に要望している^{しょうじ}庄子さんと出会いました。「私がやりたかったのは、このように住民同士が交流する場をつくることです」と、パラソル喫茶に共感しトントン拍子に話が進みました。

主催は「さくら会」。10年間にわたり、市民センターでふれあいデイをしていたボランティア団体で、代表の西村さんが庄子さんの友人だったというご縁でパラソル喫茶につながりました。



当日はアパートに入居している男性陣もテント張りや机の移動などを手伝ってくださって、とても協力的でしたが、その理由は次の言葉で納得がきました。「避難所にいたときは炊き出し等があつてとても親切にして頂いていたのに、みなし仮設に移って1カ月半たつけど、誰も来なかった。見捨てられたような気がして寂しかった…」と。

でも大丈夫。今日を機会に、少しずつ変わっていくような予感がしました。なぜなら、今日のパラソル喫茶を見学し、若林区役所の方々、地域包括支援センターの職員、NPO 法人ハートインみやぎ、河北新報の記者等、いろいろな方々が集まり見守っていました。さらに幼稚園生5～6人の遊戯や太鼓のチームも参加して、それは賑やかなお祭りのような喫茶となりました。

この呼びかけは庄子さんがされたのでしょうか？皆で力を合わせ、支え合っていけば、心のふれあう温かいコミュニティを再びつくっていくことができるに違いありません。

■ 8月4日、第5回パラソル喫茶 in 仙台市（仙台港背後地6号公園）

仙台市宮城野区で、同じ日に「NALC チーム」が活動しました。取材する予定だったのですが、JR 南小泉アパートの喫茶が忙しく、抜けて取材に行くことが出来ませんでした。そこで、NALCからの活動報告を抜粋して掲載します。

- ・宮城野区で初めての喫茶だったが、ちょうど町内会の人達の花壇づくりと重なり、その方たちも一緒にお茶を飲んだりしてくつろいで頂き、大変賑わった。
- ・花壇づくりは楽しくてたくさん植えたいけど、土が手に入りやすく困ったという声があった。
- ・パラソルのテーブルに将棋を置いたら、小学4年の男の子が愛用の将棋を持ってきた。何局も指していると、その周りに人だかりが出来るほどで、次回も一緒に指すことを約束。
- ・終了後、残ったお茶菓子を渡すと、会長さんや他の方たちが話の続きは集会所でやりますと言われ、とても楽しそうだった。
- ・宮城野区の仮設で活動する場合は、区役所の活動予定表に記入しなければいけないらしい。その

後、会長さんに連絡するとのこと。(若林区の場合は集会所の予定表で会長さんが調整する)



■ 8月7日、パラソル・ビアパーティ in 東松島市 (第4回)

参加団体：ふれあいネット松戸 (16名)、秋山チーム (13名)、パルシステム東京 (6名)、
及び個人 愛知より (村居、松下)、牧野チーム (7名)、前見ルーフ隊 (10人)
佐賀より (2名)、市民協より (田中、島田、中継) スタッフ (4名)

総勢63名が役割分担し、焼き鳥、フランクフルト、焼きソバ、ビール、子どものためのヨーヨーコーナー、仮設のルーフ設置、喫茶などを準備して「祭り」は始まりました。

今回は1ヶ所の仮設だけでなく周辺の仮設にも呼びかけたので、相当の人数が集まることが予想されましたが、それを上回る人出で、「ふれあいネット松戸」の準備した約200人分の焼き鳥やフランクフルトは早々に完売。ビールも約300人分用意していましたが、終了予定の30分前にはなくなりました。途中、南三陸町で移動サービスのボランティアをしている長谷川さんがギター片手に飛び入りで参加。昔なつかしい曲を歌って、場はいやがおうにも盛り上がり、皆さん楽しそうでした。



今回は市民協から田中さんを始めとして、島田さん、中継さんも参加されたので、色々と話したいと思っていましたがそれどころではなく、送迎に、氷を買いに(近くのコンビニまで往復で45分)と走りまわっていたので、とうとう入居された方ともふれあう機会がなく残念でした。

しかし、皆さんの笑顔と、口々に「ありがとう」と言って満足そうに帰っていく後ろ姿を見て、1年に2回くらいはこのような祭りも必要かな?と思いました。

片づけの途中、小学校低学年の男の子が近づいて来て、「ねえ、一緒に花火をしない?」と言ってきたので、お父さんと乳児、3歳くらいの女の子、学生10人くらいとワイワイ花火をしたとこ

ろ、「皆で一緒に花火をすると楽しいね！」と子どもに話しかけている若いお父さんの声を耳にし、私たちが仮設に出かけていく意義、傍らに居ることの意義を感じて帰ってきました。

■「在宅福祉サービスさわやかさかい」理事長：定永嘉代子さんより物資の支援

定永さん、ありがとうございました。震災後まもなくして定永さんから、「大丈夫だった？何か足りない物はない？知り合いに声掛けして衣類を集めました。中古のものが混じっていますが、必要ときは連絡してくださいね」というありがたい電話をいただきました。でもその時は、事務室を間借りしている状況で、とても荷物を置く場所がなく、しばらく待っていてほしいと伝えていました。ようやく事務所が確保できたので連絡したところ、なんと段ボール10箱。クリーニングした冬物衣類から夏物衣類まで、中には値札のついた新しい衣類まで…。おまけにどうやって手に入れたのか、ご飯茶わんや小皿など陶器類もたくさん入っていました。

彼女いわく、「被災者支援のお手伝いをすることができてホッとしました。こういう機会を与えてくださってありがとう」と…。

今、パラソル喫茶に持って行き、被災した方々に自由に持ち帰っていただいています。

■ご支援ありがとうございます

- ①思いがけず、なつかしい渡辺さんから電話がありました。私が被災者支援活動をしていることを知り、有効に使ってくれるだろうと、渡辺さんの知人から託された1万円と、ご自分の1万円を寄付してくださいました。
- ②スタッフの友人が勤務している（株）ナイスデイから、役立ててほしいと女性用の下着数十枚とバッグ類が送られてきました。

どこかで誰かが応援してくれている、見守っていてくれるというのはありがたいものです。元気が出てきます。ささやかですが、私たちも被災された方々を見守り、寄り添うことで、生きる活力を引き出すことが出来たらと願っています。

■今後の予定

- ・8月17日（水）パラソル喫茶 in 山元町（ささえ愛山元チーム）
- ・8月19日（金）パラソル喫茶 in 仙台市（NALCチーム）
- ・8月21日（日）パラソル喫茶 in 仙台市（茂庭台すずめの宿チーム）
- ・8月25日（木）パラソル喫茶 in 仙台市（さくら会チーム）
- ・8月29日（月）パラソル喫茶 in 仙台市（傾聴ボラ混成チーム）
- ・9月4日（日）パラソル喫茶 in 東松島市